

パッションフルーツの鉢吊り下げ式養液土耕による新たな露地栽培法

利用対象：県内全域の生産者

亜熱帯果樹パッションフルーツは、露地でも 1 年 1 作体系の栽培が可能な果樹です。従来の仕立て法「逆 L 字仕立て」では、3m 以上の大きな苗でないと 10a 当り 1t を超える収量は得られません。主枝（主枝長約 3.8m）の完成に多く日数を要するためです。そこで、安定的な収量が得られ、需要の高い夏果が多く収穫できる新しい栽培方法について研究し、「鉢吊り下げ式養液土耕栽培」を考案しました。

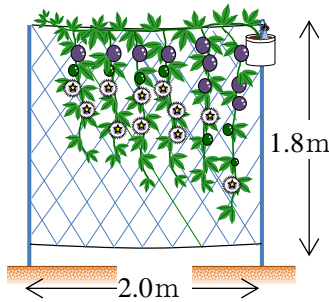


図 1 鉢吊り下げ式養液土耕栽培の図
(植栽間隔：1.5m×2.0m、本数：330 本/10a)

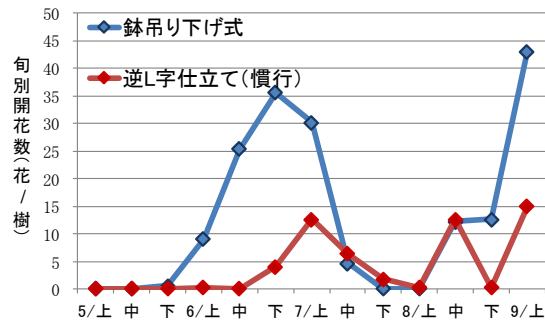


図 2 仕立て方法の違いと開花状況 (H30 年)

表 1 仕立て方法の違いによる収量及び果実品質 (H29 年及び H30 年)

調査年度	H30							H29
	平均果実重 (g)	1 樹当り収量 果数 (果)	重量 (kg)	10a 当り換算収量 果数 (果)	重量 (t)	Brix (°)	酸含量 (%)	低着色 果率 (%)
鉢吊り下げ式	66.4	68.2	4.5	22,506	1.49	18.2	1.93	48.5
逆L字仕立て	74.2	22.0	1.6	7,260	0.53	19.7	2.25	80.3
有意差	ns	**	**	**	**	**	ns	**

注) t 検定により有意差(**1%)あり。なお、調査は果実重、収量、果実品質 (7 月下旬～9 月上旬に随時) を H30 年、低着色果率は H29 年に実施。

鉢吊り下げ式養液土耕栽培法は、露地において従来の逆 L 字仕立てと比べて、早期に多くの開花と収穫ができ、果実品質も高く 10a 当り 1.3t 程度の収量が得られる栽培方法です。

表 2 鉢吊り下げ式養液土耕栽培の労働時間モデル
(単位：時間/10a)

月	栽培管理							月計
	植付	受粉	誘引	除草	かん水 施肥	収穫	伐採	
4月	200							200
5月		7	2		2			11
6月		35	14	1	1			51
7月		18	27		2	7		54
8月		120	18	1	1	23		163
9月		15			2	15		32
10月					1	10		11
11月					1	10	100	111
合計	200	195	61	2	10	65	100	633

表 3 鉢吊り下げ式養液土耕栽培の経営モデル
(単位：円/10a)

項目	金額	摘要																												
粗収入	1,560,000	(収穫果数は約18,500個) 1,300kg×80%(商品化率)×@1500円																												
減価償却費	228,259	設備名 取得額 耐用年数 償却費																												
		<table border="1"> <tr><td>棚設備</td><td>525,403</td><td>8</td><td>65,675</td></tr> <tr><td>収穫ネット</td><td>101,000</td><td>5</td><td>20,200</td></tr> <tr><td>かん水設備</td><td>274,577</td><td>8</td><td>34,322</td></tr> <tr><td>液肥ユニット</td><td>148,408</td><td>8</td><td>18,551</td></tr> <tr><td>防草シート</td><td>129,200</td><td>3</td><td>43,067</td></tr> <tr><td>プラ鉢等</td><td>232,220</td><td>5</td><td>46,444</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td></td><td>228,259</td></tr> </table>	棚設備	525,403	8	65,675	収穫ネット	101,000	5	20,200	かん水設備	274,577	8	34,322	液肥ユニット	148,408	8	18,551	防草シート	129,200	3	43,067	プラ鉢等	232,220	5	46,444	計			228,259
棚設備	525,403	8	65,675																											
収穫ネット	101,000	5	20,200																											
かん水設備	274,577	8	34,322																											
液肥ユニット	148,408	8	18,551																											
防草シート	129,200	3	43,067																											
プラ鉢等	232,220	5	46,444																											
計			228,259																											
生産資材費	185,960	肥料：液肥、元肥 42,608 諸材料：誘引用具、収穫用具 20,000 植栽資材：ネット、培土 123,352																												
出荷販売費	45,000	販売資材 販売用袋バック等 45,000																												
生産費合計	459,219																													
所得	1,100,781	労働報酬単価(円/時間) 1,739																												

本栽培法は、県内全域で栽培可能ですが、降霜期

は枯死します。水源の確保が必要です。また、開園時には約 140 万円/10a の設備費が必要です。初期投資が少し多くても、高品質で高い収量を望む方に向いています。

お問い合わせ先	紀南果樹研究室 中央農業改良普及センター	駒田達哉、須崎徳高 西川豊	電話 05979-2-0008 電話 0598-42-6707
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (学会発表要旨) 熱帯農業研究第11巻別号2、41-42P、須崎ら		